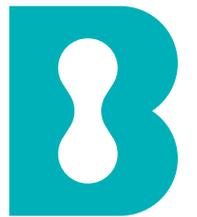


データ利活用をお考えのお客様へ

データチェーン実現のための
B-EN-Gの
データマネジメントサービス

ビジネスエンジニアリング株式会社
ソリューション事業本部



B-EN-G

Business Engineering for Growth

データ利活用の課題

ビジネスユニットにおける様々なデータを一元的に収集・管理し、あらゆるユーザが容易にデータにアクセスし、解析を実行できるプラットフォームが不可欠ということは認識されていますが、実際のそれをどう進めて良いのか分からないということが課題です。また各部門は多種多様なデータを扱っており、その管理も複雑です。

- 1) 研究開発部門: 実験データ、試験データ、検査データ、関連するメタデータ、社外データソース、etc
- 2) 生産管理部門: 計画データ、実績データ、品目在庫データ、棚卸データ、etc
- 3) 製造部門: 部品データ、工程計画データ、実績データ、設備稼働データ、在庫データ、倉庫データ、etc
- 4) 検査部門: 品質基準データ、計画データ、実績データ、分析結果データ、etc

というように、データ発生元もさまざまで、記録媒体、フォーマットも統一されておらず、個別に都度手動で収集・処理されていることがほとんどです。またメタデータから必要に応じ加工されたデータも個別管理されたバージョンも多くあり、広く有効活用されていません。各ビジネスユーザが、容易に発見、アクセスでき、信頼性が高く、自由に整形できる共通の**データマネジメントプラットフォーム**を整備することで、活発なデータ利活用が可能になります。また、経営の意思決定の質とスピードの向上に貢献し、新たなイノベーション創出を促進していきます。

現在の状態

- データの所在は担当者以外にはわからない。
- 部門に閉じたデータを手間暇かけて探している。
- データの電子化、変換、補完、整理などが手作業。
- データが個人のPCに保管され、再利用されない。
- 分析結果の共有ができず、活用が広がらない。

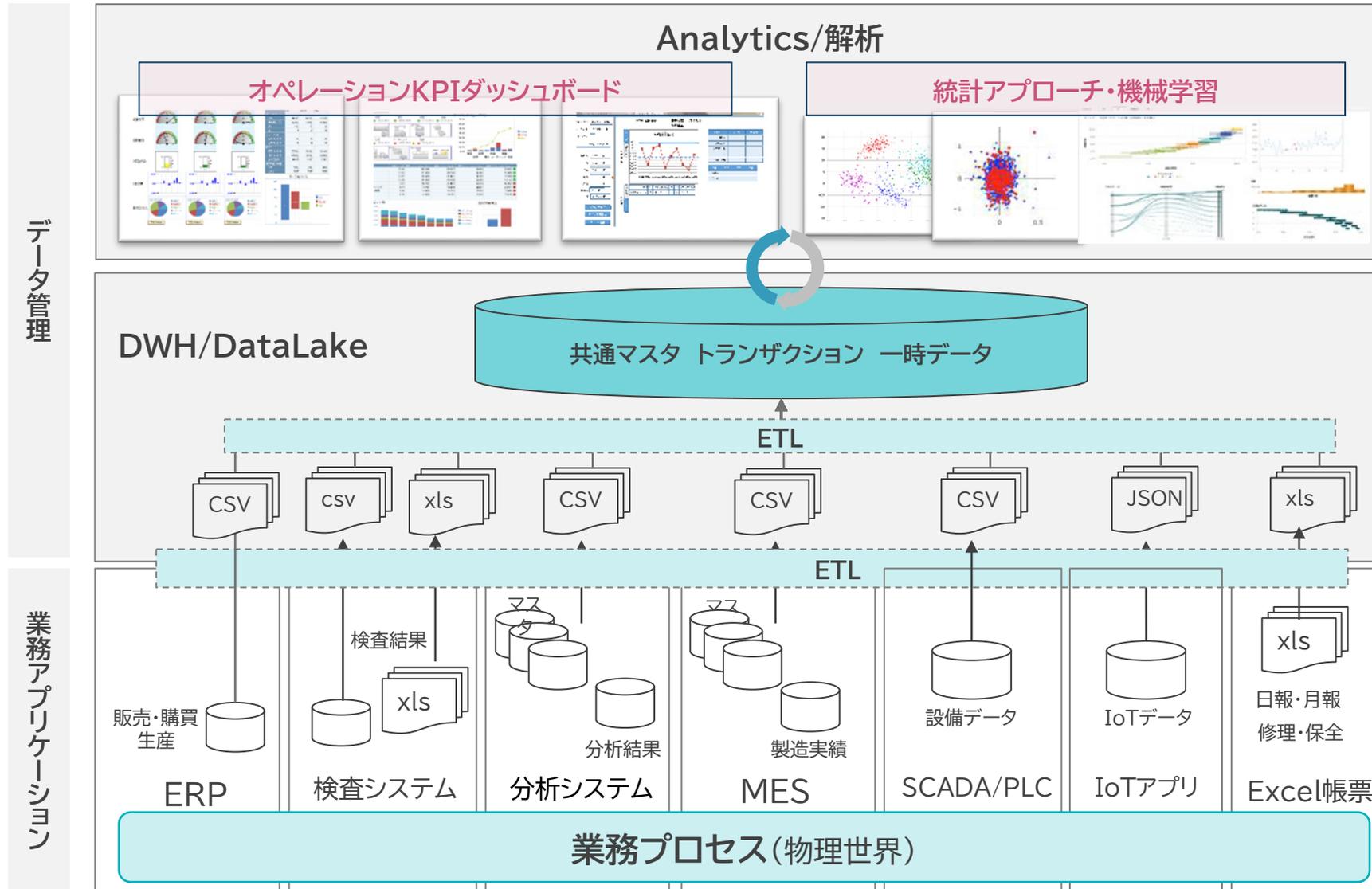
目指す姿

- 様々なデータをより柔軟に取得、保管できる。
- 各データが一元的に管理され、共有、利用できる。
- 分析者による機械学習など高度な解析モデルによる分析ができる。
- 分析者の結果をもとに、ビジネスユーザがさらに分析を実施し、個別課題を解決できる。

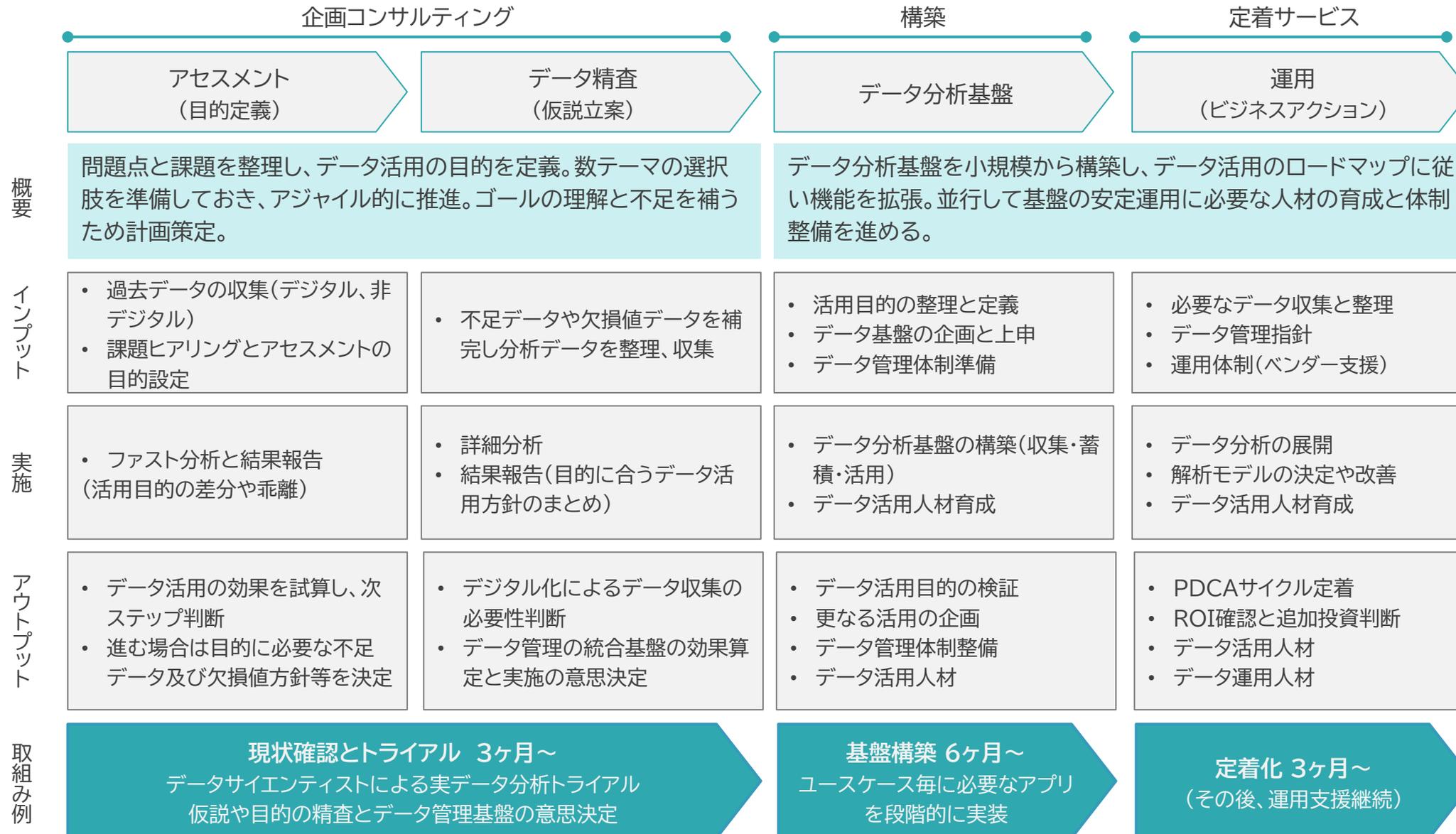
データマネジメントプラットフォームに必要な「D・A・R・T・S」



製造業のデータマネジメントプラットフォームの例



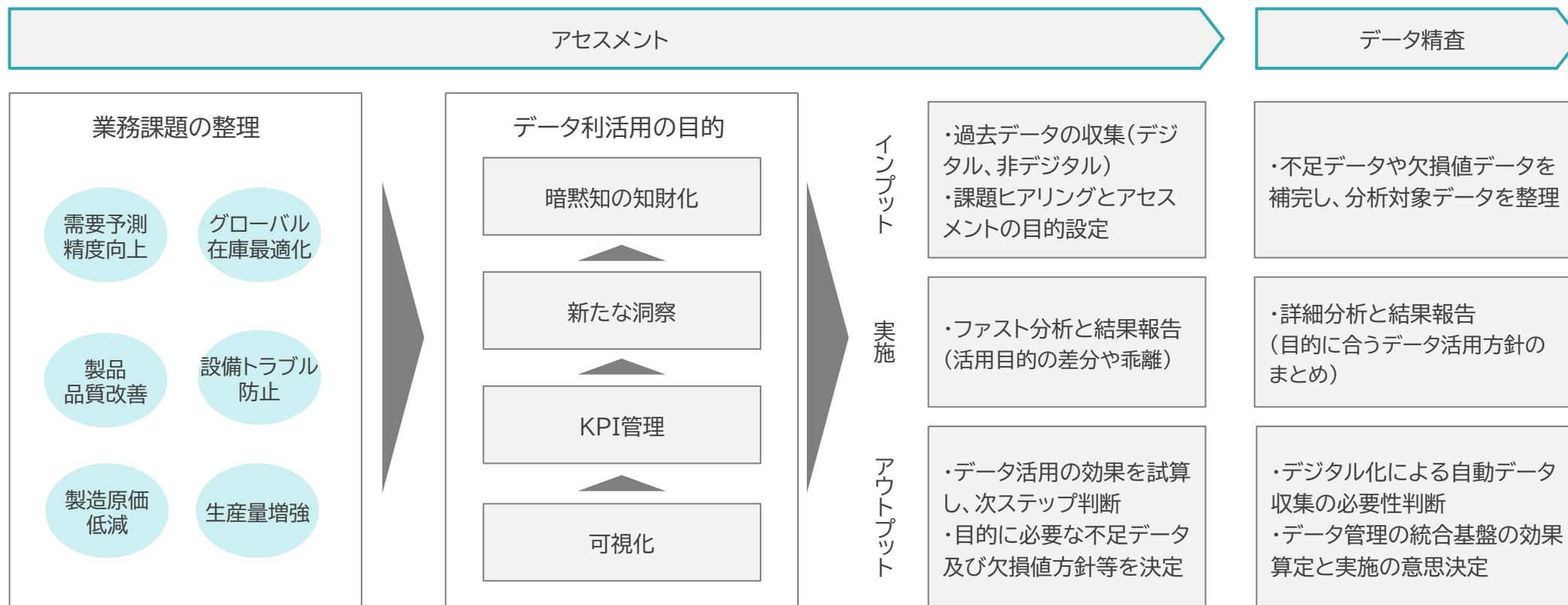
データマネジメントプラットフォーム実装の進め方



①企画へのアプローチ

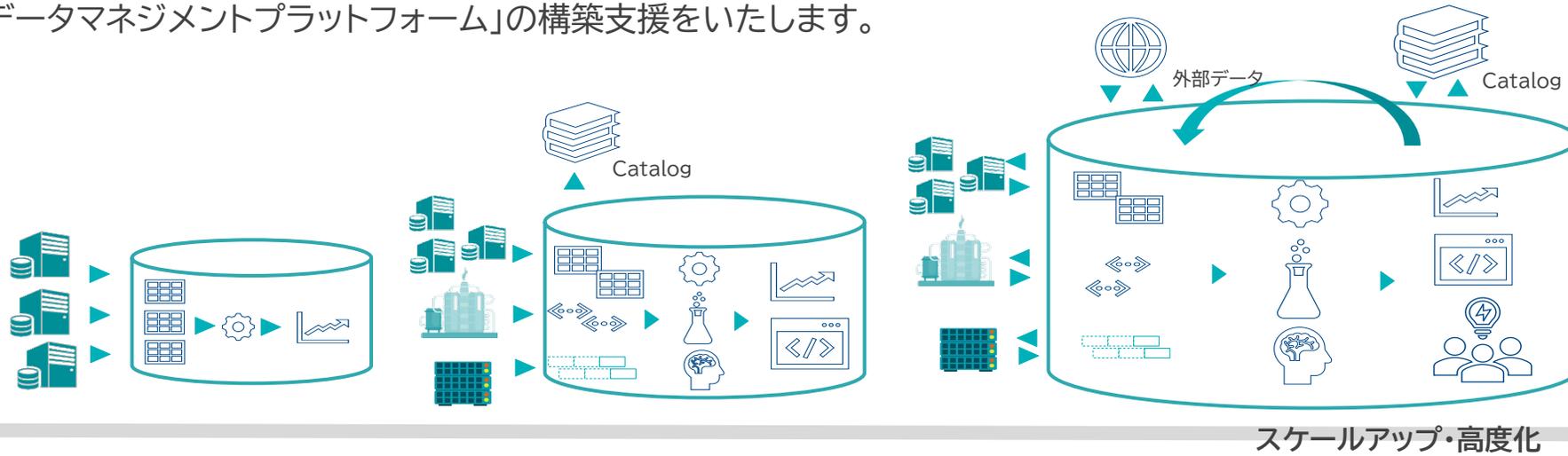
お客様へのコンサルティングを実施しながらゴールへの理解徹底を推進します。データ利活用の目的を設定するには、現時点でどの段階にあるのかを整理することから始めます。多くの場合は「見える化」から始め、段階的に利活用の価値を高めていきます。

下記は企画段階での典型的な進め方です。業務の目的を的確に捉え、必要なデータについてコンサルティングいたします。また、データ解析の結果をお客様任せにせず、業務プロセスの改善につなげるまでご支援いたします。



②構築の推進

まずは小規模で開始し、段階的に拡張していくアプローチが有効です。
B-EN-Gは、デジタルトランスフォーメーションのターゲットに応じ柔軟に変化、
拡張できる基盤「データマネジメントプラットフォーム」の構築支援をいたします。

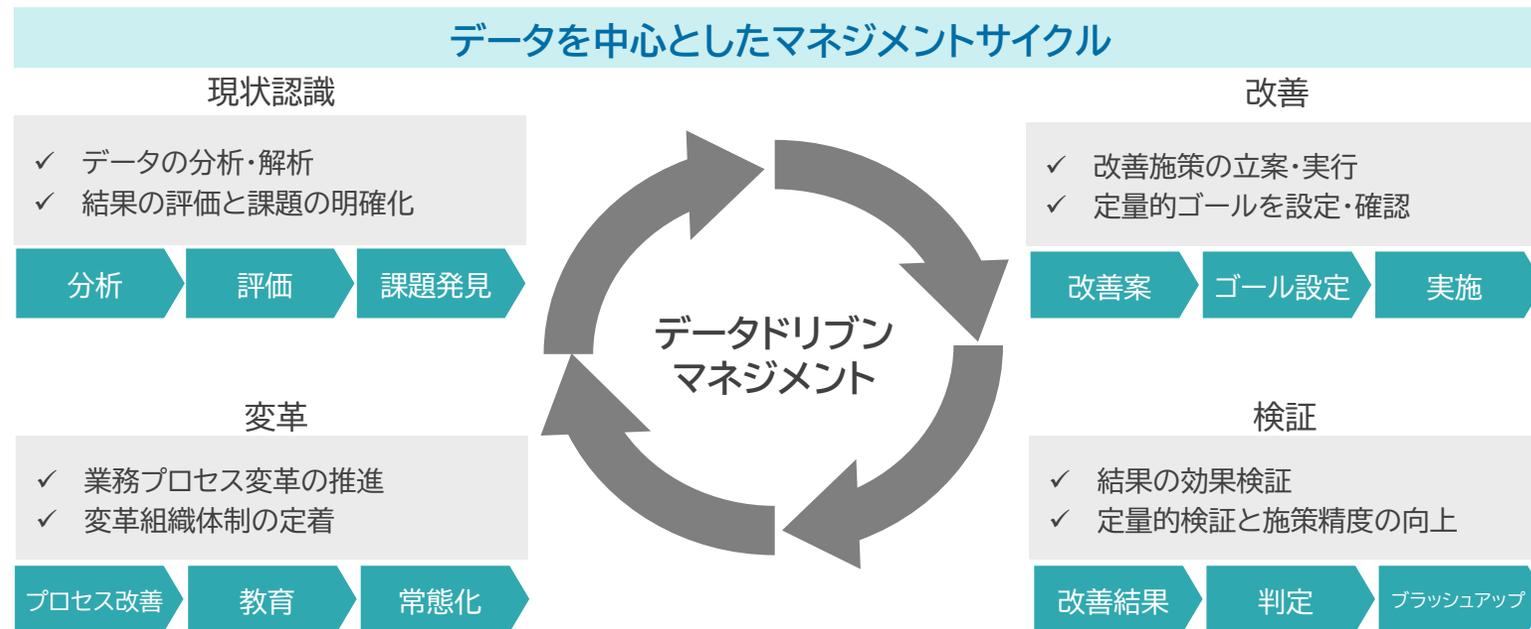


	気づきのための基盤	カイゼンのための基盤	イノベーションのための基盤
ねらい	業務・ビジネス課題の見える化	業務・ビジネス課題の改善	イノベーション・事業の高度化
対象データ	すでにあるデータ	必要なデータの新規収集	活用データ・外部データ
データへのアプローチ	複数システムのデータの統合 データの標準化ルール作成	データ品質向上 メタデータの管理 データガバナンス体制の構築	継続的な改善活動 活用データの再利用・相互利用 データガバナンスの成熟化
ユーザへのアプローチ	データ活用方法の普及・啓蒙	BIツールやデータ活用の定着 データカタログ提供	データ活用のリテラシーの高度化 ユーザ主体のデータ活用
活用方法	レポートニング	分析・AI	高度な分析・AI

③運用の定着

データマネジメントプラットフォームの整備と共に進めていく必要があるのが、データ利活用の「運用の定着」です。データ利活用を一過性のものにするのではなく、組織と人に浸透させていくことが企業の価値創造には必要です。また、データ利活用の範囲を広げていくことで経営課題解決を加速することができます。

データチェーンによりデータドリブン型マネジメント手法を定着させ、変化や変動に強い企業に変革していくことが求められています。



- 勘や経験ではなく、データを元にした現状を認識することで、適切かつ効果的な改善施策を立てられる。
- 狙いとしている効果を検証し、自社組織に適切な改善案にブラッシュアップすることができる。
- デジタル化に見合う最適な業務プロセスへ変更していくことで、変革組織が醸成される。

B-EN-GIは、お客様のデータドリブン型マネジメント、及びデジタルトランスフォーメーションの実現のため、データ利活用による課題解決の効果の検証を支援し、データの拡張に適するプラットフォーム整備をご支援いたします。

参考：B-EN-Gの取り扱い製品・構築経験について

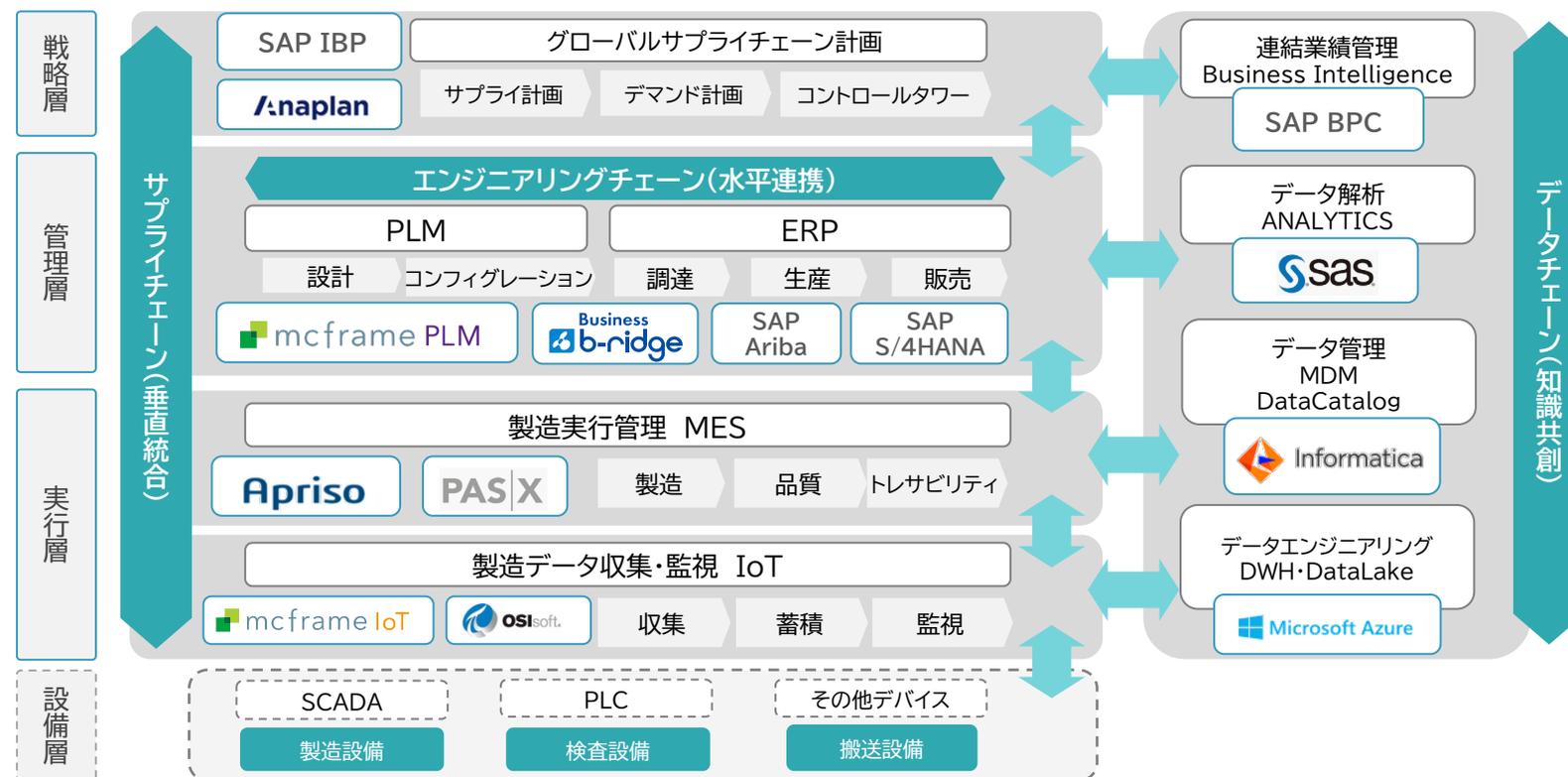
前のページでは、ERP、MES、IoTなど、さまざまプロセスで発生する多様なデータを収集し、利活用するためのデータマネジメントサービスのご案内をしてまいりました。

連携技術が発達しても実際は多種多様なフォーマットのデータを管理しなくてはならず、データ連携のための方法論や技術知見は欠かせません。

B-EN-Gは、ERP、SCM、PLM、IoT等様々なアプリケーション構築経験があり、ERP単体だけでなく、ERP+MES+IoT等複数アプリケーションの組み合わせ導入経験も豊富です。

データ利活用をお考えの際には
B-EN-Gにご相談ください。

◆B-EN-GのSolution Map ※主な取扱製品を記載



本件に関するお問い合わせ先

ビジネスエンジニアリング株式会社

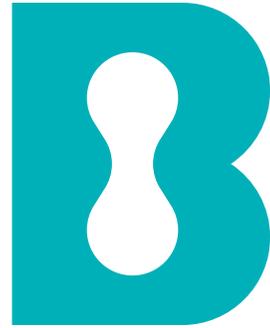
ソリューション事業本部営業本部

solution-info@b-en-g.co.jp

電話:03-3510-1622

東京都千代田区大手町1-8-1 KDDI大手町ビル

URL:www.b-en-g.co.jp



B-EN-G

Business Engineering for Growth